

# 庁議の概要

◎開催日時：令和8年5月8日（金）午前8時30分～午前8時45分

◎概要：以下のとおり

◎出席者：市長、秋元副市長、足立副市長、教育長、水道事業管理者  
部長級18人

## ◆案件・・・6件

### \* 総務部

#### ◎自動車教習所のペーパードライバー向け講習の受講奨励について

・内容：職員の運転技術の向上を促進し、業務中の安全運転の推進を図ることを目的として、当講習の受講を奨励することについて

・担当課：総務部人事課

### \* 企画財政部

#### ◎政策推進会議の調整会議およびプロジェクトチームの運用等について

・内容：政策推進会議の調整会議及びプロジェクトチームについて、手続や運用方法等を統一的に整理したことについて

・担当課：企画財政部政策企画課

#### ◎令和8年6月定例市議会における報告事項の提出について

・内容：令和8年6月定例市議会における報告事項の提出について

・担当課：企画財政部財政課

#### ◎令和7年度監査への対応について

・内容：令和7年度監査への対応について

・担当課：企画財政部財政課

### \* 共創文化部

#### ◎茨木版共創デザインブックの作成について

・内容：共創のまちづくりを進めるにあたり、本市の共創の特徴や事例、事業を進める際のポイント等をまとめた「茨木版共創デザインブック」を制作したことについて

・担当課：共創文化部共創推進課

・資料：別紙のとおり

#### ◎ゴウダ株式会社×おにくるみらい×茨木市Presents

#### 劇団四季ファミリーミュージカル[茨木のこどもたち無料招待事業]について

・内容：令和8年7月30日（木）におにくるゴウダホールで開催する「劇団四季ファミリーミュージカル『はじまりの樹の神話～こそあどの森の物語～』」に、本市在住の小学4年生～中学生等340人を無料で招待する事業の実施について

・担当課：共創文化部文化振興課

・資料：別紙のとおり

## ◆特別職発言等特記事項・・・なし



## 1 茨木版共創とは

### ◆「茨木版共創デザインブック」作成の目的

価値観の多様化が進み、変化の激しい現代において、**対話**や**プロセス**、**共感**を大切に**「共創」**が、これからのまちづくりの重要なポイントになると期待されている

でも「共創」ってよくわからない・・・

市が考える「共創のカタチ」や様々な事例を示すことでイメージを促し、**まち全体に共創を広げていく**ために作成

### ◆「茨木版共創」とは

これまでのまちづくり ⇒ 行政や専門家、経験や知識のある人たちを中心に、目の前の課題に取り組む『課題』が動かすまちづくり

これからのまちづくり ⇒ 行政、専門家はもちろん、「おもしろそう」と気軽に参加した人まで誰もが主役。共感した人たちも一緒に加わることで、新たな可能性が生まれるかもしれない『共感』が動かすまちづくり

『共感』は、共鳴するように次なる共創や新しい活動へと広がり、ひいては自己実現や日々の幸せ、豊かさの実感へと結びついていく。

## 2 共創に必要な要素

### ◆4つの“C” 茨木版共創の4つの要素

**Communication ひらく**  
まずは対話と参加。そのためには、プロセスをひらいてみよう。大事なポイントは、「意見を言う」、「意見を聞く」ではなく、「一緒につくりあげていく」こと。

**Collaboration 一緒に**  
スキルを持ち寄る足し算から、価値を生み出す掛け算へ。「適材適所」も「混ぜこぜ」もありだけど、「混ぜこぜ」のほうがおもしろいかも。

**Cheerful 楽しい**  
きっかけは「課題」じゃなくて「やりたいこと」でもよし。なんなら誰かの「やりたい」に乗っかってみるのもあり。「楽しい」なら続け、「お客さん」から「自分ごと」に意識が変わっていくかも。

**Challenge お試し**  
最初から完璧を目指さなくても大丈夫。まずは小さく試してみよう。そんな試行錯誤の中から新しいアイデアが生まれるかも。たくさん考えるのも大切だけど、ノリと勢いの「とりあえずの行動力」も大事。

### ◆2つの“大事なこと” 4つの要素をより深め、広げ、つなげる

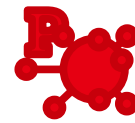


	プロセス	共感
プロセス	ひらかれた対話の場があるから途中参加しやすい	共感があるから対話がり、深まる
共感	プロセスを共有することで信頼が育つ	共感し合う過程から新たな価値が生まれる
	一緒に積み重ねることで楽しさを倍増させる	独りよがりではなく、みんなが楽しいになる
	試行錯誤の流れるものが価値になる	共感があるから新しい挑戦に仲間が増える

## 3 共創のカタチ

### ◆共創事業の4つのカタチ (目的や関わる人、組織などによって分類)

#### プロジェクト型



**【特徴】**  
事業に様々な主体の参加を募り、一緒に進めるカタチ。参加者はチームというよりパートナー。

**【すすめるコツ】**  
同じ方向に進むための「ゴール設定」と、参加者の「関わり代」を残すこと。余白があることで参加者の意欲があがる。

**【事業例】** まちみレポーター・就農支援塾めぐりば

#### ミキシングビルド型

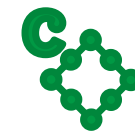


**【特徴】**  
異なるジャンルの活動が交じり合うことで、既存の取り組みにはなかった新しい価値が生まれる（かもしれない）カタチ。

**【すすめるコツ】**  
混じりそうにないジャンル同士の方が面白い展開につながることも。それぞれの「得意を重ねる」柔軟さと、ジャンルをつなぐ「間の人」が重要。

**【事業例】** おにも見にアート展・芝のみ盆踊り

#### コンソーシアム型



**【特徴】**  
各主体がリソースを持ち寄り、実行委員会のようなチームをつかって進めるカタチ。それぞれの「得意を活かす」スタイル。

**【すすめるコツ】**  
ハブとなる事務局のファシリテーションと、参加意義・目的の見える化が必要。取り組みのプロセスを共有し、参加者全員が自分ごとになることが大切。

**【事業例】** 竜王戦実行委員会・ICAW (IBARAKI CONTEMPORARY ART WEEKS)

#### オープンラボ型



**【特徴】**  
テーマ設定された「場」をひらき、参加者みんなで考え、試し、つくり上げていくカタチ。そのプロセスのなかで参加者のやりたいことを実践したり、場を介したコミュニティが生まれることも。「場」から他の型の取り組みに派生することもある。

**【すすめるコツ】**  
柔軟な発想や小さなお試しを許容するしくみや雰囲気づくりが大事。コーディネーターを置くことも有効。

**【事業例】** みちクルプロジェクト・IBALAB@広場



これまでの経過に加え、庁内ワークショップや事業担当者へのヒアリングをもとに「共創のカタチ」を分析



「茨木版共創」デザイン検討会議 (R7.8~R8.2)

事業担当者へのヒアリング



### 3 共創のカタチ

#### ◆カタチは変化していく (例：おにクル整備のプロセス)



まずは市長と市民との対話の場をつくり意見交換した100人会議 (プロジェクト型) からスタート



市民が自由に活動でき、様々な実験的な取り組みを行うIBALAB@広場を開館までの実践の場 (オープンラボ型) としてひらいた



おにクル開館時には、市民主体のオープニングイベント実行委員会 (コンソーシアム型) を立ち上げ、みんなで開館をお祝いした

その時々状況や参加している主体によって、**合致するカタチ**を選択することが大切

### 4 共創事業の事例 (レシピ)

茨木版共創の「4つの要素」がどの段階で意識されていたのか、プロセスと共感を大切に進めた経過がわかるように、**料理のレシピ**のようにまとめたもの

#### (レシピ1) オープンカンパニー (プロジェクト型からコンソーシアム型を目指す取り組み)

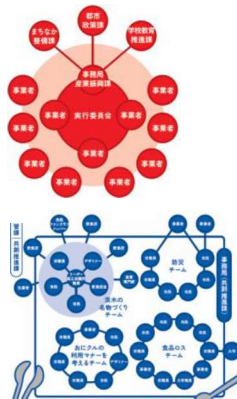
【概要】 企業や工場の中を見学、体験してもらうことを通じて、企業の魅力やものづくりの楽しさを伝える取り組み。社会見学とは違い企業自らが主体となって公開するため、参加者の高い満足度だけでなく、企業側も社員のモチベーションにつながるなど、多面的な効果をあげている。

【冊子のなかでは】 ニーズを把握するための事前ヒアリングから、参加企業の目的意識の醸成、企業同士のネットワークづくり、イベント開催後の振り返りなど、取り組みの詳細を解説。

#### (レシピ2) 茨木共創部 (オープンラボ型)

【概要】 市民、大学、事業者、行政など様々な参加者が集い、おにクルを舞台にまちをよりよくする企画を考え実践するクラブ活動のような取り組み。4つのテーマでチームにわかれ、リサーチや視察なども含めた自主会を繰り返ししながらお試し企画を検討、実施した。取り組みを進める中で事業者など新たな主体の参加も見られ、活動が充実している。

【冊子のなかでは】 共創について検討する「場」をつくることから、参加者が「やりたいこと」を前提としたチームづくり、小さなお試しの開催など、取り組みの詳細を解説。



### 4 共創事業の事例 (インタビュー)

共創の取り組みに参加した方々にインタビューを行い、**それぞれの立場での気づきや変化などをまとめたもの**

#### (インタビュー1) 茨木とりすき共創部 ~一人の“熱い”想いから始まる共創~

茨木の新たな名物として「とりのすき焼き」のレシピ開発や普及啓発に取り組む。

Key Word: 無理せず楽しむことを大切に / それぞれが得意なことを活かして参加 / 参加の立ち位置に変化



#### (インタビュー2) シニアディスコ ~「ええやん、やってみようや」の楽しさが連鎖する共創~

高齢者の居場所づくりを目的とした取り組み。来て楽しんでもらい、新鮮な刺激を得られるイベントにするため、普段は交わらなさを異色のコラボで開催。

Key Word: 「ええやん、やってみようや」の雰囲気共感 / スタッフも一緒に楽しめる空間 / 顔の見える関係性



#### (インタビュー3) まちづくり検討会議 ~プロセスが価値になる地域の共創~

ワークショップ形式での話し合いを通じて、地域活動を住民と学生が共に進めていく取り組み。

Key Word: 立場が違うからこそ生まれる視点 / お互いの意見を尊重しながら形にしていく過程 / 学生の学び



#### (インタビュー4) チャレンジいばらき補助金 ~「やってみよう」の種まき、挑戦の芽を育てる共創~

市民活動団体が実施する活動に対し、補助金の交付および伴走支援を行っている。

Key Word: 新たな価値やつながりが生まれた / 現場を肌で感じる機会に / 生の声が聴けたから、新たな展開に



### 5 おわりに

#### ◆共創は「アウトプット」だけではない

取り組みの「プロセス」や生まれた「関係性」(アウトカム)にも多様な価値がある。

#### ◆共創は人生をちょっと豊かにするかも

様々な事業の担当者に話を伺うなかで、立場や世代を超えた多様な参加によって、社会課題の解決だけでなく、**関わる一人ひとりの生活や人生がちょっと豊かになる**という変化もみえた。

#### ◆ぜひ「茨木版共創デザインブック」を参考にしてください

茨木らしい共創の大切な要素として紹介した「4つのC」を参考にさせていただくことで、取り組みにはたくさんの「共感」が生まれ、そこから人それぞれ楽しく美しい「物語」が紡がれるかも。

# 劇団四季ファミリーミュージカル

『はじまりの樹の神話～こそあどの森の物語～』

茨木市内の

小学4年生～中学生

# 無料ご招待

抽選

340名

本事業は、ゴウダ株式会社様の会社設立55周年記念事業の一環として、日頃より支えていただいている地域・茨木への感謝と恩返しを込め、「茨木のこどもたちに創造的な経験を！」という願いのもとご寄付をいただき、実現いたしました。

ゴウダ株式会社 × おにクルみらい × 茨木市 Presents  
劇団四季ファミリーミュージカル「茨木のこどもたち無料招待事業」



想いを声にすれば、きっと伝わる、つながっていく。  
引っ込み思案で自分一人の世界を楽しんでいた少年が、ある出会いを通じて、誰かの力になることやつながりの大切さに気づいていく、心の成長の物語。  
観る人の心を温かく包みこむ感動の舞台です。

# 7/30 木

17時開演（16時15分開場）

茨木市文化・子育て複合施設おにクル

# ゴウダホール 4F

**公演当日について** 公演当日、ご招待対象者の氏名・年齢を証明できるものをご持参ください。証明書類をお持ちでない方、ご招待の条件を満たさない場合は、定価のチケット代をお支払いいただきます。公演終了後は、アンケートのご協力をお願いいたします。

**注意事項**

※座席はお選びいただけません。ゴウダホール2階席でのご鑑賞となります。  
※申込後の変更・キャンセル、座席の変更はできません。  
※ご招待の受付開始前にご購入いただいたチケットの払戻、変更、キャンセルはできません。

**申込条件**

茨木市在住の小学4年生～中学生とその保護者1名まで

小学生 保護者の同伴が必要 中学生 友人同士やお一人等での申込み可

※申込み上限は5名まで。重複申込（代表者・同行者の入場含む）は無効。  
付き添いの保護者は1世帯につき1名まで。

**申込受付期間**

2026年5月10日（日）～5月18日（月）※WEBのみ受付

**申込受付**

ローソンチケット <https://l-tike.com/>（Lコード：51628）

車いす席をご希望の方は、おにクルチケットセンター（0570-02-9696 / 10時から14時（休館日、臨時休館日を除く））までお問い合わせください。

**当落について**

5月21日（水）申込時にご登録いただいたメールアドレスに当落通知をお送りいたします。

公演詳細はこちら



公演に関するお問い合わせ

主催：茨木市文化・子育て複合施設おにクル指定管理者 おにクルみらい 共催：茨木市 特別協賛：ゴウダ株式会社



茨木市文化・子育て複合施設おにクル  
〒567-0888 大阪府茨木市駅前三丁目9番45号

072-631-0296  
（9:30～18:00 / 毎月第2・第4月曜休館）

<https://www.onikuru.jp/>

